日本歯科大学新潟病院・医科病院と患者さんをむすぶ

日本歯科大学（新潟病院 医科病院）アイヴィ通信

Vol.11 2011.4.1

～皆様の口腔と全身の健康を目指して～

睡眠歯科センターのご案内

睡眠歯科センター
口腔外科教授／センター長　河野　正己

いびき診療センターが新外来に移転するにあたり、名称を睡眠歯科センターに変更しました。名称の変更にあたっては、対象疾患がわかりにくくなるというデメリットも考慮されましたが、或る女性患者さんのお悩みを看過することができず、今回の改称にいたりました。睡眠歯科とは聞きなれない言葉ですが、欧米各国やわが国にもあります専門学会の名称です。睡眠歯科センターでは、今まで通りにいびき症や睡眠時無呼吸症候群の診療を行うことはもとより、歯ぎしり症などの睡眠に関連する運動障害や誤嚥性肺炎につながる睡眠中のムセ（口腔気道障害）の予防なども病院内の専門科と連携して診療いたします。

このような情報は、いびき診療センターに発足しました患者会（SAS支援会）が毎月発行する会報「ぐっすりーぷ」でわかりやすくお伝えしますので、ご来院の際には、睡眠歯科センターの待合室に置いてあります「ぐっすりーぷ」（無料）をお持ち帰りください。

また、他院で治療を受けている患者さんについても、治療医と相談の上、睡眠歯科センターの患者さんと同様にnCPAPとマウスピースを併用した治療を行いますので、お気軽にご相談ください。

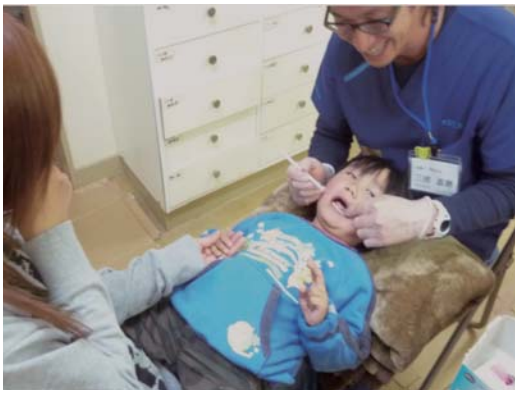
緊急企画

東日本大震災における支援活動報告

東日本大震災に被災されました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。そして、犠牲になられた方々に深い哀悼の意を表します。

東日本大震災は、我が国が、かつて経験したことのない未曾有の広域大災害で、津波被害により、交通、通信、行政機能などのすべてが断たれた地域が多く、避難生活が長期化することが予想されています。このような大規模災害時の医療支援は、生命予後に直結する災害派遣医療チームDMATをはじめとする緊急救出医療が重視されますが、長期化する避難生活では高齢者を中心に、避難生活のストレスや劣悪な衛生環境から災害関連疾病により不幸な転帰をたどる被災者が少なくありません。被災後、口腔の清掃が困難な状況が継続すると、被災高齢者の口腔の環境は悪化し、時間的経過とともに誤嚥性肺炎の発症リスクが高まっていきます。日本歯科大学新潟生命歯学部では新潟県中越地震、中越沖地震の際に、誤嚥性肺炎予防のために、避難所を巡回し、口腔ケアを中心とした支援活動を行いました。その経験を生かし、今回の大震災においても、3月18日より被災地に医員を派遣し、口腔ケア支援活動を行いました。

また、3月15日には政府機関ならびに日本歯科医師会からの要請により、多数の行方不明や亡くなられた方の身元確認作業のために、全国に先駆けて医員2名を被災地に派遣したほか、医科病院、新潟病院ともに被災地からの患者さんの避難受け入れを表明するなど、様々な支援活動を展開しております。



被災地は復興に向けて歩みだしていますが、復興途上においても被災された住民に対する中長期的な健康対策、保健医療が重要です。歯科保健医療支援活動もその一環としての役割を担うことになりますので、今後も可能な限り、様々な形で活動していく所存です。

（地域歯科医療支援室　田中　彰）

口腔ケアで全身が健康に!!

日本歯科大学健康公開講座
〔関屋地区公民館共催〕
平成22年度の健康公開講座を平成23年2月20日(日)に開催いたしました。その講演から『口腔ケアで健康を守る～お口を管理して一生おいしく食べるために～』をご紹介します。なお、次回の開催は平成24年2月19日(日)を予定しています。

●日本歯科大学新潟病院総合診療科
口腔ケアセンター長
江面　晃

なぜヒトは歯を磨かなければならないのでしょうか?野生のサルは歯を磨かないのにう蝕や歯周病はほとんど見られません。これはサルが葉、果実、樹皮などを食べているため歯に汚れがつきづらく、硬い物を食べ、よく咬むため唾液の分泌量も増えて唾液の自浄作用で汚れが除去されるからです。しかし、ヒトは加熱加工した軟かい物や甘い物を多く食べるために歯が汚れやすく、自浄作用も不十分となり虫歯菌や歯周病菌が繁殖しやすくなるため歯を磨くことで汚れ(プラーク)を除去しなければなりません。また現代人は、昔の人と比べて噛む回数が減っています(図1)。そのために噛むための筋肉(咀嚼筋)が減少し、顎の骨も薄くなり顔が細くなります(図2)。よく噛むということは、口周囲の筋肉をよく使い、刺激を受けることになります。口の周りの感覚や運動は脳の中で大きな面積を占めているため、脳の活性化につながり、認知症の予防効果があります。

現代日本人の80%以上がう蝕と歯周病で歯を失っています。歯周病は糖尿病を悪化させることが近年の研究で明らかになってきました。また、う蝕や歯周病を放置すると、離れた体の他の部位に病気が起こることがあります。例えば関節炎、心内膜炎、腎炎、手ひらや足の裏の膿疱(のうほう)などの原因となることもあります。

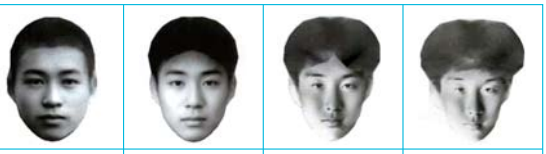
高齢者では、のどや首の筋力や飲み込む反射の悪くなり嚥下(飲み込み)機能が低下し、食物や唾液が肺の方に入る誤嚥性肺炎(図3)を発症することがあります。高齢者の肺炎のかなりの部分は誤嚥に原因があると言われています。予防には、まず口の中を清潔にすること、さらに食事に必要な口・舌・頬・首などの運動をすることで、筋肉を刺激し、唾液の分泌を促すことで、飲み込みにくさやむせかえりの予防になります。

口腔ケアを行うことで、う蝕や歯周病の予防ばかりでなく全身の病気も予防することができます。治療よりも予防することが重要です。

●図1 **噛む回数が激減している現代人**　(斎藤 滋：1987)

	弥生時代 (卑弥呼の時代)	鎌倉時代 (源頼朝の時代)	20世紀初頭 昭和10年代	現　代
1食咀嚼回数	3990回	2654回	1420回	620回
1食咀嚼時間	51分	29分	22分	11分

●図2 **変わる高校生の平均顔**　(画像・東京大学工学部原島研究室)



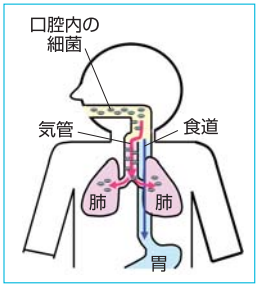
50年前の高校生	最近の高校生	50年後の高校生	100年後の高校生

50年前の高校生と最近の高校生の平均顔の違いから、未来の高校生の顔を予測した。

●図3

誤嚥性肺炎とは
口腔内の細菌などが気管にはいって発症する疾患。特に、体力の弱っている高齢者に多くみられる。

細菌の付着 ▶ 肺への定着 ▶ 発病



医の博物館へようこそ!

日本歯科大学新潟生命歯学部
医の博物館
開館日時：平日(月曜～金曜日)
10:00～16:00
入 館 料：無　料

経穴(ツボ)の位置を示す経絡人形

●A･ヴェサリウス：人体構造論(ファブリカ)

1543年、近代ヨーロッパ科学の幕開けを告げる2冊の書物が公刊されました。1冊はコペルニクスの『天体の回転について』で、アリストテレス以来の地球中心の宇宙観に対して、太陽中心のいわゆる「地動説」を主張します。この考えは単に天文学にとどまらず、中世的な世界観全体を根本的にくつがえしました。近代科学の出発点となり、「コペルニクス的転回」と呼ばれます。そしてもう1冊は、今回ご紹介するアンドレアス･ヴェサリウスの『人体構造論(通称：ファブリカ)』です。

原題は『人体の構造に関する7つの章の本』というタイトルなのですが、人間の体の構造を芸術的な木版画によって叙述し、近代解剖学のもととなりました。コペルニクスが天体という「大宇宙」を対象としたのに対して、イタリア･パドヴァ大学の教授ヴェサリウスは人間の体を神が創造した「小宇宙=ミクロコスモス」とみなし、創造主が描いた設計図を解剖という手段を使って解き明かしたといわれています。

日本の元号では天文12年、九州の種子島に漂着したポルトガル船から鉄砲が伝来したのが西暦1543年です。この年に織田信長は9歳、秀吉6歳、家康は1歳で、信長が今川義元に勝利した「桶狭間の戦い」は1560年のことでした。

ファブリカ第2版(1555年)、人間の体を構成する骨や筋肉、内臓、脈管などの図を数多く掲載

医の博物館が所蔵するのは1555年に出版されたファブリカ第2版です。タテ41×ヨコ28センチの大型本で本文は800ページ余り、内容的には初版よりも充実していると評価されています。カルカールが描いた挿画は一連の物語になっていて、図版の左ページは頭蓋骨を見ながらポーズをとっていることから、「思索する骨格人」あるいは「ハムレット」、右ページの図は「祈りを捧げる骨格人」と呼ばれています。

病院で働く人々

第4回 hospital specialist

「歯科病棟看護師」の 小田 典子 です。

カンファレンスの風景

入院病棟の看護師の仕事は、患者さんが安心して治療を受けられるよう支援することです。

入院前の説明から関わり、手術や治療、検査を安全･安心に受けられるようにお手伝いすることはもちろん、食事や睡眠などの日常生活の援助、退院の調整など多岐にわたりますが、中でも当院では口腔ケアには力を入れています。手術後や抜歯後の口腔内は感染しやすい状況になっていますが、術後にお口の中をきれいにすることは感染を防ぎ、傷の治りも早くなると言われています。しかし患者さんにとっては術後に歯磨きをしてよいのか、どのようにケアしたらよいのかわからないことがあると思います。私たちはすべての患者さんに、それぞれにあった口腔ケアの方法と道具をお勧めし説明させてもらっています。わからないことがあったらなんでも看護師に声をかけてください。

手術室のスタッフ

ところで「歯科の病院に手術室ってあるの?」と思われるかもしれませんが、手術室で年間850件の手術が行われています。手術室看護師はまず、手術前日にご挨拶させていただいています。顔を合わせることで安心感を持っていただければと思います。チームワークのよい手術室チームに安心しておまかせください。

小さいお子さんにもきちんと説明します

年長さんから小学生のお子さんの手術もあります。私たちは小さなお子さんでもどのような手術が行われるのか、写真のような冊子を使って説明し、前もって手術室の見学をしてもらっています。何も知らせないで処置に臨むより、「怖い」という気持ちが少なくなり、後々の信頼関係にもよい影響を与えることができると言われています。

病棟では大人から子供まで安心して入院生活が送れるようサポートいたします。気楽に声をかけてください。

青少年のための科学の祭典　新潟県大会

平成23年1月8日(土)、9日(日)リージョンプラザ上越にて開催された「青少年のための科学の祭典　新潟県大会」に日本歯科大学新潟生命歯学部、新潟短期大学、新潟病院も参加しました。

このイベントは、子どもたちに科学や科学技術への関心を一層深めてもらうためのもので、実験や工作など実際に体験できるものも多数あります。本学は“人体の不思議”と題し、【脳の大きさの測定】【顔面変身】【咬合力の測定】【歯垢の細菌観察】の4つを設置しました。当日は豪雪だったにも関わらず、たくさんの方が来場され、なかには親子三世代でいらっしゃっているご家族も多く、幅広い年齢層の方に参加していただくことができました。普段体験することのできない内容ばかりでしたので、みなさんとても興味深かったようです。

新潟病院 主な診療スタッフ

<病院長> 関本　恒夫　<副院長> 宇野　清博、山口　晃

●診療科	●科　長	●医　長
総合診療科	宇野　清博	佐藤　友則　菅原　佳広 阿部　祐三　横須賀孝史 海老原　隆　二宮　一智
口腔外科	山口　晃	田中　彰
歯科麻酔・全身管理科	大橋　誠	−
小児歯科	島田　路征	三瓶　素子
矯正歯科	遠藤　敏哉	黒木　大雄
放射線科	外山三智男	佐々木善彦

●特殊外来	●特殊外来医長
白い歯外来	海老原　隆
スポーツ歯科外来	渥美陽二郎
いき息さわやか外来	大森みさき
あごの関節外来	永田　和裕
口のかわき治療外来	戸谷　収二
歯科アレルギー治療外来	二宮　一智
歯科鎮静リラックス外来	大橋　誠
顎のかたち・咬み合わせ外来	水谷　太尊
特殊歯周病治療外来	阿部　祐三

●センター	●センター長
障害児・者歯科センター	島田　路征
口腔インプラントセンター	廣安　一彦
睡眠歯科センター	河野　正己
口腔ケアセンター	江面　晃

●チーム	●チーム長
在宅歯科往診ケアチーム	黒川　裕臣

9号より紙面の文字が大きくなりました。

編集後記

■3月11日の東日本大震災により本当に多くの人々が被災されました。震災に逢われた方々には謹んでお見舞い申し上げます。震災のつめ痕の大きさに心が痛む反面、義援金や震災ボランティアなど支えあおうとする想いの強さに胸を打たれることもしばしばです。私にできることは募金と節電くらいですが、被災地の支援と復興が進み、「避難所」がなくなるその日まで、続けていこうと思っています。(中)

〈お詫び〉　東日本大震災により、本号にて掲載が予定されておりました内容の一部に差し替えが生じ、発行が大幅に遅れる事態となりました。謹んでお詫び申し上げます。

日本歯科大学新潟病院・医科病院
アイヴィ通信
Vol.11 2011.4.1
発行日／平成23年4月1日　発行人／関本恒夫　五十嵐文雄
〒951-8580　新潟県新潟市中央区浜浦町1-8
TEL 025-267-1500(代)　FAX 025-267-1546(支援室直通)